

## (株) えふえむ草津 第51回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成30年11月15日(木) 18時30分～20時30分
2. 開催場所 草津アマカホール 文化教室(1)
3. 委員の出欠 委員総数 6名 出席委員 6名

(出席委員)

岩佐卓實 岡本直輝 奥谷美津子  
辻 信一 松田泰子 森 健蔵

(放送事業者側出席者)

青木 均 (代表取締役)  
山本正雄 (オブザーバー)

4. 議 題
  - (1) 会社等の概要について
  - (2) 放送番組審議会について
  - (3) 近況報告
  - (4) 番組“イブニングロケッツ785”について
  - (5) 前回審議会における改善意見等に対する措置事項
  - (6) 訂正または取消し放送の実施状況
  - (7) その他



### 5. 議事の概要

- (1) 会社等の概要について

資料1のとおり

(2) 放送番組審議会について

資料2のとおり

委員長として岡本直輝氏、副委員長として森健蔵氏を互選

(3) 近況報告

台風接近に伴い、9月30日に非常時の放送体制を敷いて放送およびホームページから台風情報を発信した。今後も緊急時の体制整備に努める。

また、新しい執行体制になったことから10月5日に全スタッフを対象とした親睦会（兼意見交換会）を実施して経営方針の共有化を図った。

緊急放送訓練として、11月1日にJアラートによる緊急地震速報訓練を行うと共に、生放送の中で啓発報道を行った。

更に、11月2日には通常番組イブニングロケット785を延長して、ボランティアスタッフの協力を得ながら「草津街あかり・華あかり・夢あかり」の実況中継を行うと共に、11月14日には草津小学校2年生の生活科「町探索」を受け入れてスタジオ見学や体験を実施した。

クレアホールのラジオロビーコンサートについては、生中継で毎月実施した。

(4) 番組“イブニングロケッツ785”について

“イブニングロケッツ 785”の音源を15分間にまとめ直したものを聴取いただいた後、番組審議に入った。

A 委員

パーソナリティは声が聞きやすいが、アシスタントの存在が分かりにくく「うん、うん」と相槌を打っているだけ。もう少し掛け合いが必要ではないか？

B 委員

アシスタントの役割が十分に果たせていない。

パーソナリティは好感が持てるので、一人でも良いのではないか。

草津の事を取り上げていただいているので、今後も情報番組として積極的に扱っていただきたい。

C 委員

効果音など、話題に関連した音が有るとわかりやすい。

また、曲を流している部分にゲストとは関係の無い音楽が流されている点について、出演者の演奏曲があれば良い。

メジャーのFMを聞いていると、何となく情景がイメージできるように工夫している。

## B 委員

折角、音楽をされているゲストに来ていただいているので、出演者の録音を流した方が良いでしょう。

## 事務局

放送当日の番組では、曲を選んだ説明が、出演される方々を応援する歌として紹介できていたと思うが、今回聞いていただいた音源の編集の仕方に問題があったのかもしれないので、今後は留意する。

## B 委員

ゲストに15分だけスタジオに来ていただいて「~こういうことです」というだけではイメージが伝わらない。

## 事務局

練習場面等を取材できれば良いが、番組づくりに必要な予算が無くスタッフも足りない。  
今後、情景をイメージができるよう努力する。

## A 委員

例えば、新聞の朝刊を紹介するラジオ放送では、ページをめくる音が入っているが、こういうことも非常に効果的。

## D 委員

会話の中の言葉に横文字や専門用語が多く、特に年齢が高い方は難しく理解できない。  
本当に、リスナーがちゃんと理解できているのだろうか疑問。  
コンサートの告知なら、聴きに行きたくなるような工夫が必要。

## B 委員

分かりにくい言葉が出てきた場合、それを補足するのもアシスタントの役割。  
聞いている人が「知っている」ということが前提ではいけない。  
例えば、分かりにくいことに対して、アシスタントが「それってどういう意味ですか」というふうにすれば良い。

## 事務局

一人ですべて説明するとくどくてしつこくなるので、アシスタントの役割として合いの手で確認すると良い。また今後「声の広報」の活用などによって情報を分かりやすく伝えていけるように工夫する。

## B 委員

草津市の話題については、これからもどんどん取り上げていただきたい。  
例えば大阪のイベントであったとしても、草津市との関連があれば紹介するなど聞き耳を立ててもらいたいような工夫が必要。

## 事務局

ご指摘のとおり、草津を起点として紹介するようになりたい。  
またクレアホールでのコンサートなどについても、「草津で身近に楽しめることがあるよ」というふうに掘り下げていくことも大切だと考えている。

## E 委員

放送では、「あの～」 「ええ～」 という言葉は入らない方が良い。

また、どういうリスナーを対象としているのかが気になる。

高齢者である我々が聞く時にはキンキン聞こえる。また、本当に我々が聞きたい番組があるのか、またどういう年齢を対象としているのか。

パーソナリティは、だいたい同年代の方が多くはないか。

広い年代層を対象にしている事を意識する番組づくりや、対象となる年齢層に聞いていただけるよう、それが伝わると良い。

## 事務局

生放送、収録番組、娯楽番組、公共公益番組、市民チャレンジ番組なのか、その目的や特性を見極め、情報を誰に届けるのかというターゲットを絞ることが大切だと考えており、そういう観点で全体の番組構成を見直している。

## F 委員

他の放送局では同じ原稿を朝と夜に使っているが、繰り返し伝えることも大切な事であり、情報を伝えるという中で共通して読む原稿があっても良いのではないか。

また、働いている人が聞けない時間帯については、家でラジオを聴いているのは高齢者や主婦層だが、例えば主婦層が聞いてくれると、その情報を子どもや夫に伝えてくれることも有るので、主婦層を取り込むことも大切ではないか。

また、大きな放送局のマネをする必要は無い。しゃべり方も含めて、えふえむ草津なりの特色があっても良い。

震災時には、えふえむ草津を聞いていたら情報が分かるということを知っていたくことが大切であり、その体制づくりを常に考えておくべき。

子どもの頃からFMラジオを知ってもらうことも重要であり、小学校をローテーションで回して身近な学校で取り組んでいただくことも検討いただきたい。

学校の取り組みを学校の昼休みに流して、更にその放送を夜に流すことによって、魅力的な番組がどんどん増えていくのではないか。

## B 委員

私の思っていたことを言っていた。

子どもが出演したら、ご両親やおじいちゃん、おばあちゃんも聞いてくれるので、これから積極的に取り組んでいくと良い。

## 事務局

例えば、主婦層への情報発信として、11時30分からお買い物のお得情報を流すとか、防災時や緊急時にえふえむ草津を聞いてもらえるようにするために、毎日の放送で聞きたくなる情報を取り上げたり、日常の火事や消防のといった生活情報を伝えるといった工夫をして、草津ならではの放送に努めたい。

また、子どもを対象にした番組も大切であり、「子ども放送局」として学校の校歌や給食を順番に取り上げていく番組や、草津を訪れた人への観光情報についても積極的に発信していきたい。

## F 委員

草津市は人口が増える一方で、高齢化も進んで二極化している中で、町内会に入らない方も増えてきている。

それをうまくコントロールしていくこともFM局の役割なのではないか。

## B 委員

町内会に入っていないと、ゴミも捨てられないし情報難民になってしまう。

## E 委員

FM を聞くための機器も大切。

例えば、車を購入すると最初からえふえむ草津が聴けるように設定してもらうように販売店に協力していただくといった工夫も必要。

また、高齢者はラジオを持っていないし、ほとんど聞いてもらっていないのではないか。防災が目的だったら、市から78.5 MHz に設定してあるラジオを配っておくとか、できれば高齢者には差し上げると高齢者は聞く時間があるので、まずは聞けるようにすることが大切。

## 事務局

クラウドファンディングでラジオを配るといったことも模索中。

また、インターネットやスマートフォンで聞くことができることを知っていただく工夫もしていきたい。

最近、AI スピーカーも普及してきたことから、これも活用できないか検討している。

## C 委員

最近災害が多く、地域では不安を抱えている。

テレビのd ボタンなどを利用した放送などもあるが、停電だと使えない。

そういう点でラジオが有効であり、災害時にはコミュニティ FM の78.5 MHz に合わせてもらえるように日ごろから広報しておくことが大切。

例えば、商店街に協力いただいて785円セールをすとか、ステッカーや「広報くさつ」の広告枠に78.5 MHz を入れてもらうといったこともできるのではないか。

以前、消防では緊急通報を知っていただくために119円セールを実施していただいた事も有る。

## 事務局

10周年を迎える来年度からは、サポーター制度等を整備して、新たな取り組みを行いたいと考えている。

## F 委員

えふえむ草津の「みなくさまつり」に関する情報をまちづくり協議会の会長が地域まちづくりセンターで聞いてくれて「もっと他の番組でも紹介できないか」と言っておられたが、地域まちづくり協議会との連携も大切なのではないか？

## 事務局

各学区まちづくりセンターに番組出演していただくなど、連携を進めていきたい。

また、地域イベントとの連携についても、「草津小市」での実況生中継などを試験的に行う予定であり、今後も積極的に取り組んでいきたい。

## D 委員

その時間帯になれば、必ず聞きたいと思える番組が必要。

情報は山ほどあり、必要があれば自分で取りに行くという時代であり、その時間にあえて聞いていただけるような仕掛けが必要。

事務局

その時間に聞きたい情報が聞けるように、番組構成を工夫していきたい。  
また、聞きに行きたいけれども、都合がつかなくて現場に行くことができない人に対しては、オンデマンド放送などでいつでも聞いていただけるような実験も行ってい行く。

(5) 前回審議会における改善意見等に対する措置事項

資料3のとおり

(6) 訂正または取消し放送の実施状況

該当なし

(7) その他

F 委員

大学から、ラジオ電波が入らないという状況の改善を求められている。  
大学グラウンドは災害時の地域内輸送拠点になるため、電波が入りにくい状況では機能が果たせない。

事務局

電波出力の増強や発信用アンテナの方向等の工夫が必要。  
大学放送局とのデータ通信による連携やサイマル放送の活用などについても検討していきたい。

次回は、1月17日（木）18時30分から アミカホール文化教室で実施する。

【議事録の公表方法】

- ①当社玄関カウンターに設置（11月22日～）
- ②当社ホームページへの掲載（11月22日～）
- ③番組「草津レポート」（12月7日12時～）の中で番組審議会の内容を放送

以上